	意見のポイント	具体的内容
その他の意見・要望	福祉用具全般について	・福祉用具を利用することによって安楽な介助ができるので、助かっている。 ・福祉用具をいくつかレンタルしているが、料金も安くてサービスも良く大変助かっている。 ・良い製品であっても高価格なため購入できず、結局使用できないのが現状。 ・高齢者人口の増加により福祉用具の需要は増えているはずなのに、なぜコストが下がらないのか？ ・もっと利用者にとって意味のあるもの、暖かみを感じられるようなモノづくりをしてほしい。 ・個々の障害や体格などに適応した福祉用具を、もっと気軽に使用できるようなシステムにしてほしい。 ・定期的に清掃・メンテナンスを行ってほしい。 ・カタログや取扱説明書をもっと分かりやすくしてほしい。 ・手入れをしやすい形状にしてほしい。（衛生管理の問題） ・現在施設で使用している製品が当たり前のものだと思って業務をしているので、不満や要望というよりは 既存のものをどううまく使いこなすか、どう工夫して使っていくかという考えでやっている。 ・「福祉用具」という言葉自体が分かりにくく、違和感がある。 ・機能面や安全面はもちろん重要だが、もっとデザインや種類を充実させて、使っていて気分が良くなる ような製品づくりを心がけてほしい。 ・利用者の状態の変化に伴い、福祉用具を購入しても使えなくなりムダになっているものが多い。また価格 の問題で再購入が難しく、結局合わないものを使い続けている利用者も多い。 ・福祉用具を使用するよりマンパワーで行った方が早いので、結局使っていないケースが多い。 ・福祉用具の導入を勧めたいが、費用の件がネックになっている時「もし必要がなかったら…」と思うと なかなか購入を勧めることができず困ることがある。 ・もっと在宅での生活を想像して製品開発をしてほしい。（室内の広さや生活スタイルなどに配慮を） ・一見して「福祉用具」と分かるようなデザインはやめてほしい。 ・壊れやすいものが多くて困る。 ・器具の操作ボタンが多すぎたり、複雑になりすぎている。 ・多機能になりすぎたために複雑化し、逆に使いにくくなっている。 ・レンタル商品の衛生管理が気になる。 ・全てのものが簡単に清潔を保てるようなものだと良い。 ・安全でどの人にも対応できるものが良い。 ・介護予防教室にて集団で使えるようなグッズがあると良い。 ・住宅改修にかかる費用の自己負担分について、補助制度をもっと充実させてほしい。 ・身につけるものについては、見るからに「介護用品」と分かるものが多いので、改善してほしい。 ・福祉用具に関して普段あまり真剣に考えて取り組もう、という意識が低いことに気づかされた。援助者側は 「これで十分」と思っていても、利用者にとっては不快であったり不便であったりすることも多いのかもしれ ない。（実際に不満を訴えてくる利用者はあまりいないのだが…） ・全体的にデザイン性に欠ける。もっと種類豊富で選択肢が増えると良い。 （特に男性が好むようなデザイン・色柄のものが少ない） ・サンプルやデモカーなどで事前にきちんと試して吟味し、それから購入できるようなシステムを徹底させて ほしい。 ・福祉用具貸与対象施設を増やしてほしい。（グループホーム等は対象外のため）

	意見のポイント	具体的内容
その他の意見・要望	福祉用具全般について	・介護保険での福祉用具貸与・販売に該当する製品を、もっと増やしてほしい。 ・認知症の利用者にも対応できるものを開発してほしい。 ・レンタルやリサイクルの充実に向けて取り組んでほしい。 ・認知症等で福祉用具の使用方法を理解できない人に対し、どのようにしたら福祉用具を有効利用できるのか、特に在宅介護の場合大きな課題となっていると思う。 ・介護保険適用のものは自己負担が少なくて済むが、施設で利用する、特に大型のものは非常に高価であるため、なかなか設備投資できない状況にあると思う。 ・介護ロボットについては「あったらいいな」という思いと「ロボットには無理」という思いと両方ある。 ・地方自治体によっては運転免許証を返上するとシニアカーがプレゼントされる、というシステムがあるそうだ。エコポイント等の得点でも何か購入資金に換えられないものだろうか？ ・個々のニーズを充分聞き取るようにしてほしい。
	福祉用具に関する情報収集・知識習得などについて	・企業側はもっと施設や在宅に対して福祉用具に関する情報を積極的に伝達し、さらに訪問して現状把握に努めてほしい。（施設ごと、利用者ごとに担当者をつけてほしい） ・地域住民への福祉用具選別のアドバイスや講演、また介護保険申請で利用できるものについての情報提供や指導を行ってほしい。 ・企業担当者は、ぜひ現場体験をしてほしい。 ・自立支援の観点で、利用者にとって何がよりよい製品なのかを見極める目を職員側がもっていなければならない。（利用者の残存機能を十分に引き出せるようなものを選択できるように） ・施設内研修として福祉用具についての勉強会等は行っているが、他施設や企業との情報交換・情報の共有ができる場がほとんどない。せっかく良い製品を導入しても、職員１人１人が適切な使用方法を知らないまま間違った使い方をしていたり、効果のない使い方をしたりしていては意味を成さない。 行政や企業側が主体となり、福祉用具の基本的な使用方法や効果などについて勉強会を開催したり福祉用具に関するスペシャリストが各施設を訪問し、スライドやデモを用いて職員への指導を行ったりもっと職員の意識向上・知識習得のための対策に力を入れて取り組んでほしい。 ・多種多様な福祉用具が存在していても、それを目にしたり試したりする機会がないのでよく分からない。 ・施設全体に福祉用具の種類が少ない。また、新しいものを導入していないので職員が福祉用具についてあまり知らない。 ・福祉用具は多種多様にわたるため、利用者個人に合った商品をアセスメントの結果で提供できるように常に新しい情報を取り入れておきたい。よって、企業側が積極的に情報提供をしてくれると有難い。 ・カタログは沢山あるのだが、結局無駄になっている。もっと有効な方法で情報が得られると良いと思う。 ・一般の人（介護保険適用対象外の人）が杖や靴などを購入しようとしても、それらについての情報を得る機会が少なく、結局通販ぐらいしか利用できていないのが残念。 ・大企業は介護で儲けようとしないでほしい。 ・在宅でも施設でも、福祉用具を必要としている人が自分に合った用具を気軽に使用できる環境を、制度の見直しも含めて行政・企業・民間が連携していくべき。 ・他施設との意見交換の場を設けてほしい。（各々の施設での取り組みや工夫していることなどの情報交換を行い、普段の業務・ケアに活かしていけたら良い） ・今回の調査結果について、ぜひ現場関係者にも報告をしてほしい。